



みなさんこんにちは。海外協力隊員の天野です。私は JICA(ジャイカ)支所の近くに住んでいます。私が借りている家、住所や番地がないのです。私のだけでなく隣りの家もないのです。またその隣の家もありません。そもそもパラオには、住所や番地というものが存在しないのです。

パラオに来たとき驚きました。住民登録や自動車免許証の取得、銀行口座の開設など。どれも日本では書類に住所や番地を書かないと受け付けてもらえません。でもパラオでは OK でした。

実際の生活ではこのようになります。島外への出張を控えた同僚との会話。「あすはペリリュー島へ行くので、ヒサオの家まで車で迎えに行くよ。どこに住んでいるの」「郵便局の少し南です」「じゃあ、その道路を〇〇時に通るよ。手を振ってね」 おおざっぱな会話ですが、それでうまくいくのです。

金曜日に開かれるナイト・マーケット



このパラオ流でいうと、その郵便局の西側にベツラハム公園があります。そのまた西側に、吹き抜けの建物がいくつかあります。一週間おきの金曜日、そこでナイト・マーケットが開かれます。

その日の夜は地元の野菜や果物が安く手に入ります。バーベキューやタイカレー、シューマイやピザなど。近隣の店からの出品もあって、夕方から観光客や地元の人たちが集まってきます。バンド演奏やパラオ・ダンスが夜の 9 時過ぎまで続きます。

ではさっそく紹介しましょう。

ステージの周辺には屋台が並びます。野菜や果物、バーベキューの売り場です。ヒトやモノでいっぱい。買うときはその間をうまく通り抜けて行かなければなりません。夜なので暗いですが涼しいです。



野菜は一袋 1 ドルから 3 ドル。ギョーザ、シューマイ、ピザ、揚げパン。魚の唐揚げ、チキンや牛肉の串焼き。ケーキ、クッキー、フライドポテト。コーラやココナッツジュースなど飲み物も売っています。ときにはマグロの切り身やカメのココナツ煮も。

この日はアボガドケーキを買ってみました。2 ドル 50 セント。アボガドがたっぷり入って濃厚で、美味しかったです。

左の 2 人が製作者、右下のトレイに乗っているのがアボガドケーキ。

食べ物のほかにアクセサリや絵ハガキなど、観光みやげ品も売っています。ヤシの葉を編んで作った籠やマホガニー材の彫刻は廉価販売されています。実演もあります。



前はファウンデーション(活動資金集め)のために、パラオ高校の学生たちが弁当販売をしていました。東京オリンピックに出場するアスリートたちを応援する活動もありました。

この日は高校生たちのロボテック展示がありました。模型の自動車にコンピュータプログラムを組み込んで、パソコンでリモート操作する技術です。模型の自動車も自分たちで組み立てるそうです。このタイプの大型ロボットは、東日本大震災でがれきの下に埋まった人を探査するのに使用されていました。

ずいぶん前のことですが私も大学で電子工学を教えていたという、先生たちから日本の教育事情をいろいろ聞かれました。パラオの高校での指導内容は当時と同じレベルですが、学生たちが熱心に勉強している姿に感動しました。目が輝いているのは、日本の工業系の学生と同じです。



ステージの中央では、バンド演奏とパラオ・ダンスが絶え間なく続きます。この日は祝日なので、多くの高校生がダンスやバンドボーカルを披露していました。どれも軽快なリズム音楽なので、聞いているとからだは自然に揺れます。ショーの最後には、ダンサーに混じって一般の人も踊ります。



上段の2枚目と3枚目は、男女が楽しく踊る、明るく楽しいダンスです。下段の1枚目は勇ましく迫力のある、戦士(ウォリアー)たちのダンスです。上段の2枚目の写真は、2・4・6人目が男性です。

旅行ガイドブックに載っていません

このナイト・マーケットのことは、日本の旅行ガイドブックには載っていません。もちろん開かれる場所も。開催日が確定しないからでしょう。先ほど隔週の金曜日と書きましたが、今年の1月は開催されませんでした。開催場所(住所と番地)や問い合わせ先を表記できないことも理由でしょう。もしパラオへ来た日が金曜日でしたら、現地の人に聞いてみてください。ちょうど開催日でしたらラッキーです。まるで無料のオプションツアーを得たようなものです。

終りに

ステージでパラオ・ダンスを踊っていたのは、多くは小学生や高校生です。いくつかのダンスチームが編成されているようで、かなりの練習がされていました。彼らはパラオの伝統文化を伝える役割も担っています。東京オリンピックに出るアスリートたちへの応援、高校生のロボテック展示、活動資金集めの弁当販売。どれも見ても若者たちのパワーを感じられるナイト・マーケットでした。

ロボテックの指導をする先生からは、次のことを聞きました。この高校を卒業する多くの学生たちは、日本や台湾、UN(アメリカ合衆国)の大学や専門学校に進学するそうです。そのあとは、その国の企業に就職するとのこと。残念ながらパラオにはハイテク技術の就職先がありません。大学卒業の資格を持った学校の先生たちも、給料が高いゴムやサイパンで働くことを希望するそうです。頭脳流出という問題を日本以上にパラオは抱えています。

次回は私の仕事を紹介します。お楽しみに！